

## 認知症にやっかい町に

少子高齢化が進み、五霞町の高齢化率は今年4月時点で32.8%となりました。

これからも人口は減少していきませんが、高齢者は増え、認知症の人も増えます。団塊の世代が75歳を迎える2025年には、全国で高齢者の五人に一人が認知症になると予想されています。

認知症は、何らかの病気によって脳の神経細胞が壊れたり働かなくなることで、認知機能が低下し、それまでできていた社会生活ができなくなる状態のことを言います。

厚生労働省の研究で、年齢ごとの認知症有病率が示されていますが、95歳以上では約8割の人が認知症になるそうです。他人事と思つていますが、長生きすると誰でも認知症になるようです。

認知症になると「物忘れ」がひどくなったり、時間や場所の把握が難しくなったりします。

これを特別なことではなく、当たり前のことと捉えれば、認知症への考え方も変わってきます。



昨年実施した養成講座の様子

「困っていることを少し手伝つていく。」それだけで、認知症の方もその家族も安心して生活できます。

例えば、「お家に帰れなくなった高齢者に声をかける。」一人では勇気がいりません。でも、当たり前のことなれば、「どうかしましたか。」と気軽に声をかけられます。

一人ひとりのちょっとした心がけで、認知症の人に優しいまちづくりにつながります。

町では、認知症サポーター養成講座を開催し、認知症の症状や接し方などをお伝えしています。興味のある方は、地域包括支援センターや健康福祉課までお問い合わせください。

(健康福祉課 保健師)

学校  
「コーナー」



五霞西小学校

### 地域の皆様の見守り ありがとうございます

地域の皆様方には、子供たちの登下校の折に見守ってください。ほんとうにありがとうございます。また、オレンジ色ベストを着用されているスクールガードの皆様に対しては、子供たちも安心と感謝の気持ちでいっぱいです。

今後も、地域や保護者の方々と一緒に、子供たちの心身ともに健全な育成に全力で取り組んでまいりますので、引き続き皆様の温かいお力添えをお願いいたします。



上写真は、六月十三日の一斉下校時に、通学路にある「子ども見守り1110番の家」の場所を確認し、通学班長がリーダーとなって、お礼と見守りをお願いしているところです。

また、六月二十八日の授業参観後にも、親子で通学路を歩いて下校し、まわりから死角となる危険箇所や、「1110番の家」の場所を、親子で再確認しました。



多くの方々のご協力をいただいています。

六月十七日、十八日の二日間、五霞中学校生徒、町青少年相談員、子ども育成会、元栗橋駐在所など、たくさんの方々にご協力をいただき、「朝のあいさつ運動」を実施しました。小・中学生が、笑顔で元気にあいさつを交わしました。今後も、すすんであいさつできる子供を育てていきたいと考えます。



右下の写真は、六月十四日に行われた交通安全教室の様子です。当日は、町交通安全協会、交通安全母の会、境警察署、さらにトラック協会の皆様にご協力をいただきました。

一年生から六年生まで、安全な歩き方や自転車の乗り方をご指導いただきました。実際に、大型のトラックの運転席に乘坐してもらい、「死角」の存在を学びました。

これからも交通安全に気を付け、「自分の命は自分で守れる」子供たちに育てたいと考えます。

今後も、地域や保護者の皆様のご支援、ご協力をいただきながら西小学校の教育活動に全力で取り組んでまいります。